

第20回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト 最終審査会 結果一覧

結果	No	写 真	学校名	学部・学科	代表者名	学年	事業名	プランの概要
優秀賞	1		福岡女学院大学	人文学部 現代文化学科	興田 珠夕	4年	SEh (SDGs+ESD+Hospitality)	SDGsを生徒、学生、世界の人々に楽しく認知してもらうための一連の活動と関連する製品開発・販売を行います。カートゲーム化することでAIDAの法則が活かされ持続可能な学びを実現、このことで国際目標であるSDGsの啓発促進を担っています。収益は、カート本体、セミナーなどより得ます。
NICT賞	2		有明高専	創造工学科 情報システム コース	橋村 直矢	4年	新時代の「巣籠もり生活」を豊かにする住宅コンサルティングビジネス	新規に家建てるファミリー層向けに、壁面ディスプレイを用いて自由自在に空間をデザインする新たなライフスタイルを提案します。新型コロナウイルスの影響でステイホーム需要が高まる中、自宅での過ごし方をより充実したものにするため、地方自治体や地元企業と協力し、壁面ディスプレイのコンサルティングを行うことで収益を得ます。
優秀賞	3		北九州高専	専攻科 生産デザイン 工学専攻	岡部 唯人 笹 凌太郎	4年	AR技術を活用した次世代AGVシステム	現在の物流倉庫業界では、高齢者や女性の労働者が増加、ピッキング時間の増加という問題が挙げられます。そこで本事業では、自律走行や電動アシスト、カルガ毛走行が可能なAGVを提供します。またAR技術と自己位置推定システムを用いて、スマートグラスに対象物までの最適経路を表示、円滑に荷物を運ぶことができ、対象物を探す時間を短縮することで企業内利益の上昇が期待できます。
優秀賞	4		筑業女学院大学	現代社会学部 現代社会学科	有吉 桃花	3年	Delivery agency	旅行者や出張中のサラリーマンの大きな荷物が煩わしいという課題を、安価で迅速で安全な荷物配達サービスで解決するビジネスです。我々は、旅行者やサラリーマンの荷物を主要駅・空港から宿泊施設まで運ぶ「Delivery agency」を展開します。本サービスを宿泊施設に販売することで収益を得て、宿泊者に対してサービスを提供します。
優秀賞	5		長崎大学	教育学部	宮川 智慧	3年	ミツカル	全国の中小企業向けに開発された学生と企業をマッチングする就活サイトです。ミツカルの役割としては、多くの中小企業が苦手とするPRを学生目線で支援することで採用率アップに繋がります。ミツカルでは、逆アファー型で学生が承認後にチャットができるようになり、チャット可能数により3つの料金プランを用意しています。
優秀賞	6		佐賀大学	理工学部 知能情報 システム学科	浅川 泰輝	4年	モバイルオーダー&決済システムの飲食店事業者への展開	コロナ禍で利用者が激減した飲食店に向けて、店舗外からの注文と決済を可能とするモバイルオーダーシステムを開発しました。9月のイベント：佐賀県ナイトテラスチャレンジでは、多数の店舗にご利用いただきました。我々は、全国40万店舗の飲食店事業者をターゲットとして、このシステムを月額5000円で提供するサービスを提供します。
九州経済連合会長賞 (3位)	7		宮崎大学	工学部 電子物理工学科	藤島 旺志	2年	リンク	障がい児童福祉施設向けに連絡帳アプリを用いて作業効率を上げるビジネスです。連絡帳を書く手間が省けることによってその施設の従業員が利用者と関わる時間や労働力などが確保できます。これは、人材不足の解消と施設間との連携（横のつながり）を果たす役割です。月額・年間基本プランを設定し、各施設の契約人数に応じた金額で収益を得ます。
優秀賞	8		大分大学	理工学部 創生工学科	池田 旭花	3年	視覚障がい者のための文字認識音声ガイド眼鏡	視覚障がい者の方々に認識した画像からモノや文字を音声で伝える眼鏡を提供することにより、生活上の補助を行います。視覚障がい者の方々が、日々の生活をより快適に送れるようにするための物を開発し、視覚障がいをもつ方々、また介護施設、リハビリテーションセンター等への販売を行います。
グランプリ	9		宮崎大学	農学部 応用生物科学科	西辺 政人	2年	タイムインゴッド	Withコロナの状況下でマスクの使用が余儀なくされる中、吃音者に向けてマスクに取り付け可能なプロダクトを作ります。それを吃音者の団体や法人、個人に提供するビジネスです。私自身吃音者で、幼少期には特に重篤の吃音で苦しんでいた原体験があります。吃音者の生の痛みを理解する人がこのビジネスを行う事には大きな役割があるし、他の誰でもない自分がこのビジネスプランをするべきであると強く思います。宮崎大学発ベンチャー、または社内ベンチャーとして法人で収益をあげます。
優秀賞	10		宮崎大学	農学部 応用生物科学科	安藤 彩夏	4年	MOBILE FOOD -災害時の食のリスクを 解消する-	近年、地震や大雨などの自然災害の多発により防災意識は高まっていますが、災害の発生は予想できず、屋外で災害に合う場合もあります。そこで、若者をはじめとして常に持っているスマートフォンに注目し、スマートフォンにしまえる携帯用のシート状非常食を製造・販売します。つまり、場所を問わずに非常時に使用できます。収益は、商品の売上げから得ます。
優秀賞	11		宮崎大学	地域資源創成学部 地域資源創成学科	家城 真志	2年	リモカル	都会と地方の就業格差を改善するために、地方大学生に長期有給完全リモートインターンシップの提供を行います。このビジネスを通して、本当にやりたいことを見つける場を地方に作り、地方の若者の価値を最大化させます。収益構造としては、企業に対する業務管理（成果評価）ツールの提供、長期インターンシッププログラムのコンサルティング、インターン採用プログラム、マニュアルの作成及び提供です。
九州経済産業局長賞 (2位)	12		大分大学	理工学部 創生工学科	原 久乃	2年	家族間情報共有アプリ MADOKA	これから家庭を作る20代から30代の夫婦及びパートナーを対象とした家族間情報共有アプリを開発・運営し提供します。アプリ自体は広告収入をつけて無料で提供し、プランは無料プランと月額制の有料プランを用意します。このアプリを通じて家族全員が家事を行い、女性の仕事と家庭を両立できる社会の実現を後押しします。